

与論島を活性化させるために

工学部機械工学科 鶴 大地 学籍番号：2510210564

与論島を活性化させるためにはどのようなことを行えばよいのかについて、今回の集中講義で僕が実際に訪れて感じたこと、考えたこと、地元の方々から受けたお話を含め、私の中で考えた活性化させるために必要だと思われることを記述します。

主に考えたのは経済的な面での活性化です。資料によると東京や大阪などの大都会と言われる地域と鹿児島市の労働者の平均所得は、それら大都会の労働者の平均所得に比べ大きく下回っています。これと同じことが鹿児島県の中でも存在します。鹿児島県内の地域別平均所得において、与論町はこの中でも平均値を大きく下回る地域の一つでした。この点において私は自分の出身県の経済対策のことを思い返しました。私は以前同じような状況下にあった佐賀県の出身です。佐賀ではこのような状況化を脱しようと取り組んだことが与論島の活性化の足掛かりになると考え、それを例として以下に記述します。

まず佐賀県が初めに取り組んだことは公共事業です。日本でも他の国でも経済を活性化させるために最も有力な経済対策の一つとして公共事業があげられます。佐賀県でも県や町が働く雇用を増やし、お金の循環をより潤滑にすることで需要と供給の拡大を目的に、様々な工事などを県が促し行っていたようです。これにより県内の土木建築業社は雇用を増やし、多くの人々が働く場を得て、その人々がお金を使う。この仕組みが大切なのです。与論島をいろいろと車や自転車で回りましたが、まだまだそのような公共事業に利用できる場所はたくさんあったと思います。その点を経済面の活性化に上手く使われてはどうかと僕は考えました。しかし、与論島への国からの金銭的補助はあまりないことと、島の全人口が約 5000 人であること等から、そのままの形で取り入れることは現実的に難しいと思います。したがって、与論島の特徴にあったシステムを作り出す試みから経済対策は始まるとも言えるでしょう。新しいシステム、枠組の下で公共事業に取り組むことがまず考えられた活性化方法です。

二つ目に挙げることは、多くの人々にとって魅力的な分野をつくることです。佐賀県は数年前に早稲田大学の高等学校、佐賀早稲田を設立しました。学年の数十%は一流大学に無試験で進学できるという点から佐賀県内だけでなく、九州や四国など各地から受験者を集めています。つまりは人を集めています。年に一度の受験の日だけでも、他県の間人が佐賀県で使うお金は楽に一万円を超えます。このように外から来る人間の消費を促進させることも経済の活性化には大切です。与論島には観光の第3次産業が従来盛んです。この分野をさらに大きく成長させることに一度取り組むことも大切だと考えます。私が実際に感じた小さな例を挙げると、お土産のお店やフェリーの中のお土産コーナーなどで与論島らしい、与論島にしかないものを探しましたが半分は沖縄の名前の入ったものばかりでフェリーの中では与論島の名の付いたものは見つかりませんでした。もっと与論島独自の親しみやすいキャラクターや、手ごろな

お菓子などの面にもこれから力を入れてみたら良いのではないかと思います。佐賀でも吉野ヶ里や有明海を中心にそのようなキャラクター作りにも力を入れていました。小さなことから、旅行者の面から考えることも大切ですね。

三つ目に考えたことは、人口増加にどのように取り組むかです。与論島の講師の方々の話の中で、若い者たちはどんどん島の外に出て行ってしまおうと言われていました。与論島の人口は約 5000 人この数値で二人に一人が男性として 2500 人。これは公共事業にも関わりますが男性の働き手が経済発展には大きく関係します。この数が年月とともに減少することをどのように防ぐか、さらには増やしていくことも考えねばなりません。私は若年層が島の外に出ていくことは問題としません。私もそうですが勉強のためや、あらゆる力をつけるために外へ行くことはむしろ島にとっても良いことです。大切なことはこの外に出た人たちが戻って来やすい環境を作っていくことにあります。私の友人にも就職活動に励んでいた人が大勢います。その人たちの多くは出来れば生まれ育った地元で就職したいと考えていました。このように考える人は多いようです。しかし現実では大きな会社は都会に行かないと佐賀には無いから仕方ないという人がそのほとんどです。地元に戻りたいが良い職が無いということがブレーキになっています。そのような人々を呼び戻すことで若年層の人口の減少は抑えられます。単純な例を挙げるといくつかの分野で活躍する企業の誘致です。これも経済対策の一つとして行われる手段の一つですが、ここでの狙いは若年層の呼び戻し、他の地域の人間の引き込みによる人口増加にあります。これは経済活性化と人口の増加の二つを包括した対策手段になり、良い影響を与論島にもたらすのではないかと思います。

以上の三つの公共事業、島の魅力強化、人口減少対策の点から経済の面での活性化を私は考えました。

最後に与論島を訪れての感想です。

私は今回の講義で初めての与論島になりました。町は自然豊かで綺麗な海が近くに面し、街行く人は愉快で温かく、とても魅力的な場所だという印象が残りました。短い間しか居ることができなかつたのでやり残したことがたくさんあります。来年の夏休みにはお金を貯めて友人と旅行に来たいと思います。与論島大好きです。

講義をしてくださった方々へ

勉強になりました。ありがとうございました。また来年も鹿児島大学の生徒が訪れると思います。たくさんのことを後輩にも教えてあげてください。